

輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

※申請者名：大野醤油醸造協業組合

品目：オーガニックグルテンフリー醤油、オーガニック醤油、丸大豆醤油

1. 輸出における現状と課題

2012年より醤油の海外輸出を開始。伝統的な丸大豆醤油の輸出や、2012年に有機JAS認定を取得しオーガニック醤油の輸出などに取り組み、安定した輸出量を確保できるようになった。加えて、2018年には国際認証（JFS-C）の取得にも取り組み、更なる輸出拡大にむけた体制構築も行った。

そして近年では、グルテンに起因する健康被害の増加から、グルテンフリー食品の需要も高まっており、実際に取引先からも、これまでのオーガニック醤油に加え、オーガニックグルテンフリー醤油の供給要請も非常に多くなっている。

こうした海外市場の動きと取引先からのニーズをふまえ、今後は新たにオーガニックグルテンフリー醤油の製造にも取り組み、新たな海外需要の獲得を図りたいと考えているが、そのための新たな製造装置の導入や、コンタミが起きないような専用工場の整備等が課題となっている。

2. 輸出事業計画の取組内容

従来の丸大豆醤油やオーガニック醤油の輸出に加え、需要の高まっているオーガニックグルテンフリー醤油の輸出にも新たに取り組むことにより、更なる輸出拡大を図る。そのために、グルテンフリー醤油の製造に必要な以下の点を実施する。

- ①小麦混入防止の為、オーガニックグルテンフリー醤油専用の製造設備を新たに整備。
- ②新たな製造設備についても国際認証（JFS-C）を取得。
- ③オーガニックグルテンフリー醤油の製造において重要な水分量の調整を、うまくコントロールできる特殊な蒸煮缶や焙炒装置を導入する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- P：組合員と大野醤油醸造協業組合が協同して、商社からの現地情報をもとに製品規格や製造計画等を検討する。
- D：計画に基づき大野醤油醸造協業組合が醤油を製造し、組合員が輸出を行う。
- C：海外輸出の進捗状況について、JETROや自治体、金融機関等から評価・アドバイスをいただき、必要に応じて計画の見直しを行う。
- A：商社を通じて現地取引先や消費者のからの意見を収集し、商品の改善に取り組む。

4. 輸出目標額

	【現状】 （令和2年度）	【目標】 （令和8年度）
輸出額	118,694千円	276,400千円
主な輸出先	EU、カナダ	EU、カナダ

* 既存得意先（EU）からの要請がすでにある。